

パワーポイントによる漢字導入教材の開発

— イメージと漢字のレイヤ —

江崎 哲也 奥村 圭子

要 旨

非漢字系日本語学習者のための初級漢字導入教材を開発した。本教材はMicrosoft®社のPowerPoint®を用い、1つの漢字につき9枚から12枚のスライドを提示するものである。

イメージを用いて漢字学習を行う教材は“KANJI PICT-O-GRAPHIX”、『漢字100CD-ROM』等があげられる。しかし、これまで漢字の成り立ちや覚え方を示すのに、イメージと漢字を横に並べて示すか、イメージを一旦消してから漢字を提示するという方法がとられてきた。本教材ではパワーポイントを用い、漢字を覚えるためのイメージと漢字を重ね合わせて提示することとした。これにより、イメージのどの部分が漢字のどのパーツに該当するか教師が説明する必要がなくなり、その結果、各学習者がイメージと漢字を頭の中でレイヤするのにかかる時間の差を埋めることが可能となったと考えられる。

また、2006年5月から7月にかけて非漢字系日本語学習者5名に対し、本教材を用いた漢字の授業を行い、その有効性を確認した。『みんなの日本語初級 I 漢字英語版』Unit1から20の学習の間に3度テストを行ったが、その正答率は90%から100%であった。

キーワード：非漢字系日本語学習者 初級漢字導入教材 パワーポイント イメージと漢字のレイヤ 漢字学習

1. 日本語学習者と漢字学習

非漢字系の日本語学習者にとって漢字学習が非常に時間と手間のかかるものであることは一般に知られている。桑原(2000)では、日本語学習者が漢字と英語翻訳語を結び付けて記憶する際にどのような方略の有効性が高いかを探っている。その結果、漢字の形態と英語翻訳語を結びつける絵画を提示することによって各構成要素の形態が符号化され、記憶にも有効であることが示されている。そこで本稿では、初級段階で漢字が効果的にかつ楽しく覚えられるようなパワーポイント教材を作成し、授業に用いた。

2. 漢字教材とパワーポイント教材

イメージ¹を用いて漢字学習を行う教材は“KANJI PICT-O-GRAPHIX”、『漢字100 CD-ROM』等があげられる。しかし、漢字の成り立ちや覚え方を示すのに、イメージと漢字を横に並べて示すか、イメージを一旦消してから漢字を提示するという方法がとられてきた。この

¹ 画像、絵画を指す。

方法では、イメージのどの部分が漢字のどのパーツに該当するかを、教師が示すか学習者自身が頭の中で重ね合わせなければならない。学習者によってはそのようなことがイメージしづらい可能性もある。そこで Microsoft[®] 社の PowerPoint[®] を使い、漢字を覚えるためのイメージと漢字を重ね合わせて提示することとした。これにより、イメージのどの部分が漢字のどのパーツに該当するか教師が説明する必要がなくなり、その結果、イメージのどの部分が漢字のパーツに該当するか学習者がイメージできないという可能性が排除される。また、PowerPoint を用いた日本語教育の実践報告には北川ほか (2005) があげられるが、扱いやすさ、拡張性を考えると非常に便利なソフトであると言える。

3. 教材開発

漢字を提示する順やUnitごとの分量は新矢ほか (2005) 『みんなの日本語初級 I 漢字英語版』を基礎とした。本書は『みんなの日本語初級』の漢字学習書として書かれた教材であり、数多くの日本語教育機関で使用されていることから採用した。なお、220字の漢字、350語の漢字語が収録されている。今回の教材開発では、220字全ての漢字にパワーポイントのスライドを用意した。

Microsoft[®] の PowerPoint[®] を使い、以下の手順で行った。漢字「雨」のスライドを例とする。

1. 「クリップアート」の「検索」機能を使い、「雨」や、その漢字から連想される語（「傘」、「雲」など）で図を探す。
2. できるだけ「雨」の字形に近いもの、つまり図と漢字のレイヤを行ったときに重なり度合いが高いものを選択する。

なお、写真は一切用いなかった。これは写真には意図しないものが写りこんでいたり、学習者によって注目する箇所が違ったりするためである。

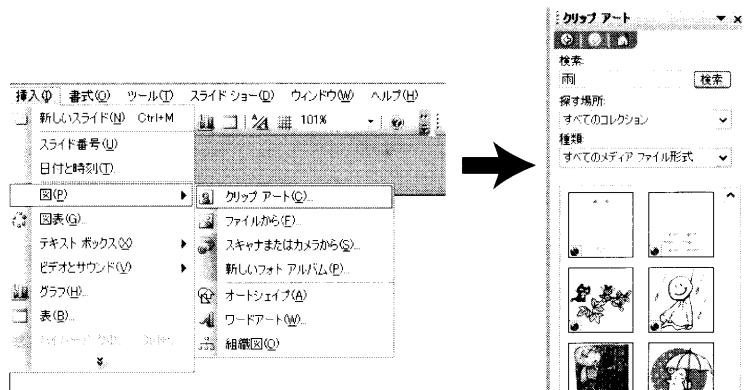
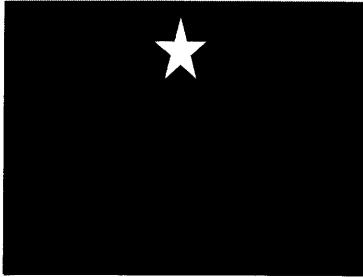
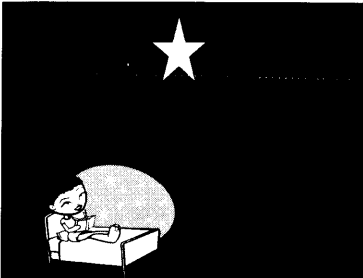


図1 クリップアートの選択

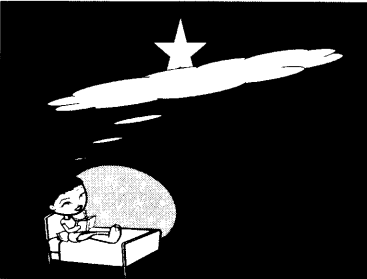
実際のパワーポイントの画面を以下に提示する。Unit15の「夜」を例とする。



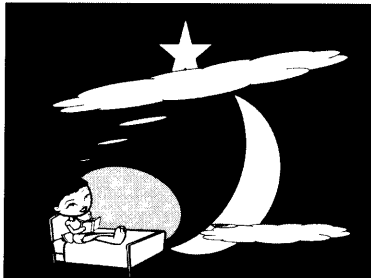
1. 「★ (黄色)」のフェードイン、回転。
 (「夜」をイメージしたサウンドスタート)



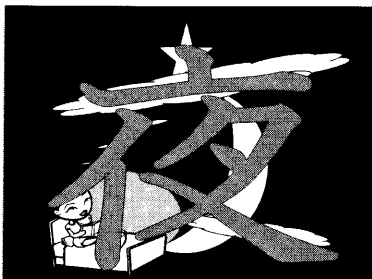
2. 「女の子がベッドで本を読む図 (カラー)」のフェードイン。



3. 「吹き出し (白)」のフェードイン。



4. 「三日月 (黄色)」、「雲 (白)」のフェードイン。



5. 「夜 (グレー)」フェードイン。
 イメージにレイヤ。
 (「夜」のサウンドストップ)



6. 「夜」の意味（英語）、訓、音の提示。
英語：赤
訓：青
音：黄色



7. 漢字語の提示（ワイプ）



8. 漢字語の読み提示（ディゾルブイン）



9. 漢字語の意味（英語）提示（スレット
英語：赤

図 2 パワーポイントの画面

4. 授業の実際

4.1 期間、対象

2006年4月から7月にかけて、本学における大学院入学前予備教育・研修コースIの授業の一つとして行われた。対象者は大学院入学が予定されている研究生また交換留学生を含む。学習者の母語はドイツ語、タイ語、アラビア語で、男性3名、女性2名である。うち2名は日本語学習歴が2年、1名は6ヶ月であり、2名は学習歴がほぼないに等しい。年齢は23～36歳である²。

4.2 授業の流れ

大学院入学前予備教育・研修コースIでは日本語の授業を週に13コマ(1コマ90分)、計1170分行ったが、漢字の授業は水曜に90分、金曜に45分行き、『みんなの日本語初級I 漢字英語版』の1Unitを45分間で学習した。なお、漢字の授業は『みんなの日本語』の第10課の学習が終わった後にスタートした。

実際の授業の流れは以下のとおりである。

1. 前回の復習(フラッシュカードで読みと意味の確認)
2. クイズ(1Unitにつき10問、読みと書き)
3. 本日のUnitの漢字導入(パワーポイント教材による導入。42V型プラズマテレビ使用。)
4. 『漢字ドリル』(後述)で再度、意味、読み方、使い方、覚え方を確認。教師が筆順をホワイトボードで提示。その後書く練習(5回から10回程度)

(3.～4.を繰り返す)

5. 当該Unitの漢字語の読みと意味をフラッシュカードで確認。
6. 『みんなの日本語初級I 漢字英語版』の該当ページで読み、書きの確認。
7. 残った時間に応じて水書道による漢字の練習、またはゲーム(漢字語カルタとり、部首パズル、『漢字-英語マッチングゲーム』など)。

4.3 副教材

副教材として以下のようなものを用意した。

4.3.1 『漢字ドリル』

『みんなの日本語初級I 漢字英語版』では漢字の音訓や意味は別冊によって示されている。そのため、図3のようなシートを作成し、授業で配布した。

²個人情報保護の観点から、学習者別の情報は掲載しない。

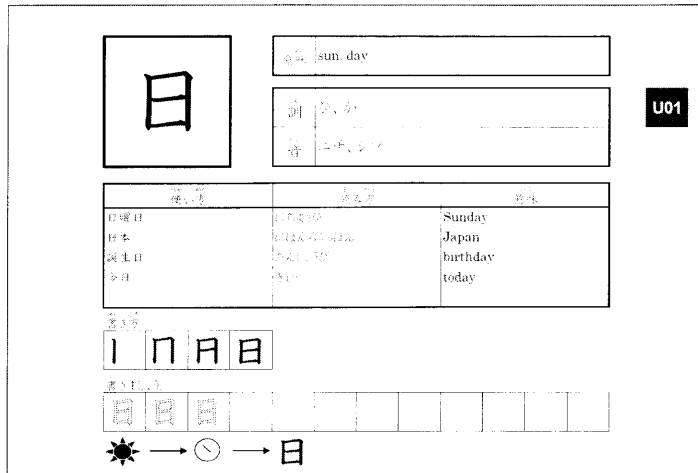


図3 『漢字ドリル』

4.3.2 フラッシュカード

漢字語の読み、意味の確認や、ゲームにも用いた。文字色は青で、A4版に漢字語、読みを配した。

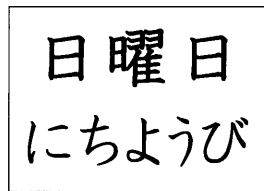


図4 『フラッシュカード』

4.3.3 『漢字－英語マッチングゲーム』

漢字語のカードを英語翻訳語が書かれたシートに並べていくゲーム。ペア、または一人で、速さと正確さを競う。文字色は英語は赤、漢字は黒である。

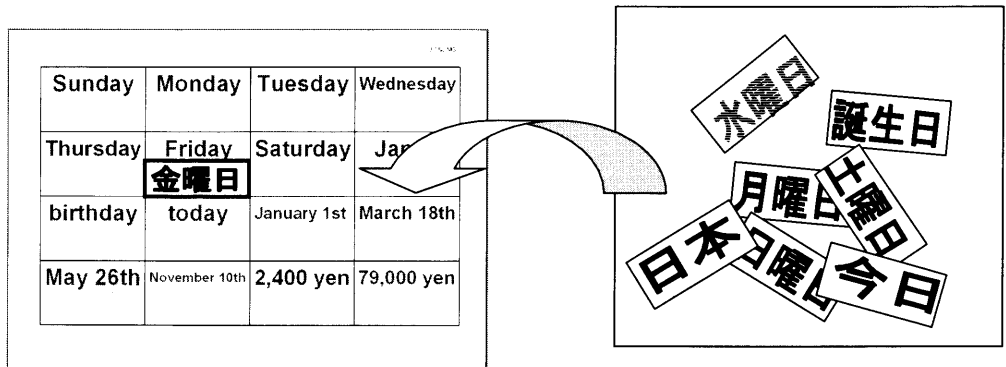


図5 『漢字－英語マッチングゲーム』(A4版)

5. アンケート

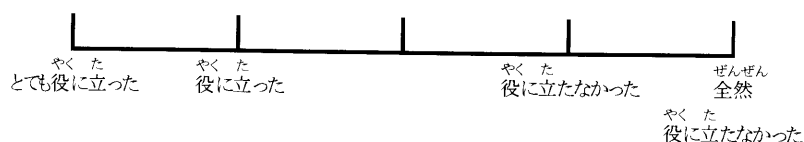
5.1 アンケート概要

Unit 1 から20の学習が終了し、テストを行った後に本コースを受講した5人全員に対し、アンケート(無記名、5段階尺度)を行った。アンケートの質問項目、尺度は以下のとおりである。

項目：

1. テキスト(黄色)はどうでしたか。
2. 『漢字ドリル (kanji drill)』はどうでしたか。
3. パワーポイントは どうでしたか。
4. フラッシュカード (flash cards) の練習はどうでしたか。
5. このゲームはどうでしたか。

尺度：



なお、それぞれの教材を間違えないよう、質問文の横にカラーの図を配した。1.の「テキスト(黄色)」とは新矢ほか(2005)『みんなの日本語初級I 漢字英語版』を指し、2.の『漢字ドリル』とは第4章で提示した副教材を指している。また、5.の「このゲーム」とは同じく第4章で述べた『漢字-英語マッピングゲーム』のことである。

これらの質問に対し、上記5段階尺度でどれに最も近いかを答えさせた。またアンケート後に口頭で授業の感想や教材に対する意見を述べてもらった。

5.2 アンケート結果・考察

表1にアンケートの結果を示す。「とても役に立った」を5、「全然役に立たなかった」を1として表示している。

表1 アンケートの結果

	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5
学習者A	4	5	2	4	3
学習者B	4	5	5	5	5
学習者C	4	5	5	4	4
学習者D	4	5	4	5	5
学習者E	4	5	5	5	5
平均	4	5	4.2	4.6	4.4

表より、『漢字ドリル』を『みんなの日本語初級 I 漢字英語版』より高く評価しているのがうかがえる。また、パワーポイントについても一人を除き好評だったと言える。なぜこのような評価になったのかはアンケートの後に口頭で³述べてもらった授業の感想に理由がうかがえる。

『漢字ドリル』について

1. 理解しやすかった。
2. 発音⁴がそれぞれ書いてあるのがよかった。
3. 一目でわかる。

『パワーポイント教材』について

1. 絵による説明がよかった。
2. 理解しやすい。
3. おもしろい。

しかしながら、パワーポイント教材については「本来の意味を反映していないものもあった。」、「イメージと漢字を結びつけることができないものがあった。」という指摘もあった。これについては今後の課題としたいが、「本来の意味を反映していない」シートであっても、それが漢字の記憶に役立ったと考えられる事例をここに紹介したい。

事例 1 : Unit 8 「犬」の読み

前回学習した漢字の読みをフラッシュカードで確認しているときに、学習者が右手を軽く握り肩の上で少し動かした後で「いぬ。」と言った。これはパワーポイントでは以下のように提示されていた。

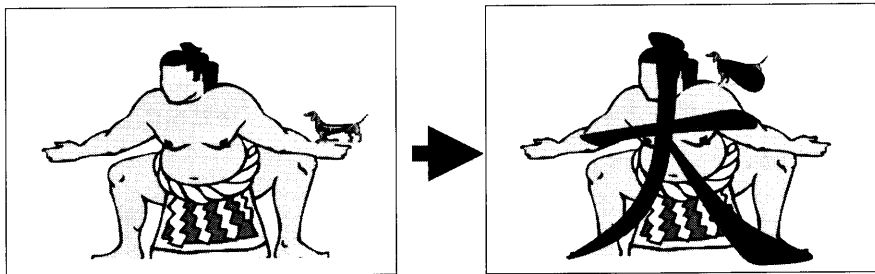


図6 「犬」の覚え方(パワーポイント)

関取が中央に配され、その左腕を小犬が駆け上がり、その後漢字の「犬」がレイヤされる。

³ 英語・もしくは日本語で述べてもらった。

⁴ 音・訓、及び漢字語の読み方を指すと考えられる。

学習者は自分自身を関取に見立て、軽く握った右手で小犬を表現していたものと考えられる。

事例2：Unit 3「学」の意味

前回学習した漢字の意味を確認しているときに、学習者が額の前で手を握った状態から指を同時にはじいた⁵。その後、「Study. 勉強します。」と言った。パワーポイントではそのような提示はされていなかった⁶が、『漢字ドリル』では以下のように提示していた。



図7 「学」の覚え方(『漢字ドリル』より)

学習者の行動は恐らく「ひらめき」を表現している三つの二等辺三角形を手で表現したものと考えられる。

上記事例は、いずれも本来の漢字の意味からは「ズレ」があるが、漢字の読みや意味を記憶するのに役立っていると考えられる。また、それぞれの事例が別の復習の時間に起こったことも考え合わせると、繰り返し同様の方法で記憶しようとしていたと考えられる。「本来の意味を反映していないものもあった。」「イメージと漢字を結びつけることができないものがあった。」という学習者の指摘は「本来の漢字の意味を反映していなくて覚えにくいものもあった。」と解釈されるべきであろう。

6. 今後の課題

学習者の勤勉さに助けられた面もあったが、全体としてはかなり効率的に初級漢字が学習できたと言えよう。Unit 1 から20の学習の間に毎回のクイズ以外に3度テストを行ったが、その正答率は90%から100%であった。しかし、学習者からも指摘があったように、本来の漢字の意味を反映しておらず覚えにくいものもあった。本稿で考えられた漢字学習のための「イメージ」がどの程度記憶に結びつきやすいか、評価する必要がある。

また、本学留学生センターではWeb2.0⁷を志向する日本語教材を開発中であるが、本教材はそれにも合致したものとなりうる。今後さらに本教材のさらなる充実を目指し、広く使用されるものとした。

⁵ どの指をはじいたかは筆者の記憶にないため定かでない。

⁶ パワーポイントでは、「学」の上の部分は「ガッコウ」の小さい「ツ」で表現していた。

⁷ Web2.0を志向する日本語教材は以下のように定義される。

「2.0」とは第二世代という意味だが、この言葉の発信者 O'Reilly の「What Is Web 2.0」における説明をもとに「Web 1.0」教材と比較して「Web 2.0」教材は以下のように特徴付けられる。

Web 1.0 - 従来の Web ベースの教材	Web 2.0 - 次世代の Web ベースの教材
製作者が作った状態で完結 →	常にベータ版(ソフトウェアの開発途上版)で提供
ユーザの意見は即時に反映されない →	ユーザの参加によって洗練されていく
製作者とユーザの間に明確な境界線がある →	ユーザがコンテンツの構築に参加、そして貢献する
「規範」のみの知 →	条件を満たした集団から抽出した知の蓄積、「集合知」へ
製作者が一人、もしくは小規模グループ →	ユーザは絶えず増加

<参考文献>

- 江副隆秀編『漢字100 CD-ROM』新宿日本語学校
- 大川 英明(2005)「PowerPointを使った漢字紹介ファイルの作り方」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』第15号 15～30 関西外国語大学留学生別科
- 北川逸子・阿部美恵子・坂東正子・高岸雅子(2005)「パワーポイントを用いた提示型日本語教育教材の開発」『龍谷大学国際センター研究年報』第14号 3～14 龍谷大学国際センター
- 楠谷 大樹(2004)『KANJI STARTER 2』アイビーシーパブリッシング
- 楠谷 大樹(2005)『KANJI STARTER』アイビーシーパブリッシング
- 桑原 陽子(1998)「漢字の形態によるイメージについての調査」『広島大学日本語教育学科紀要』8 59-76 広島大学教育学部日本語教育学科
- 桑原 陽子(1999)「単語の記憶に及ぼすイメージ性の効果—音読処理課題における音韻情報と形態情報の符号化—」『広島大学教育学部紀要第二部』第48号 219～226 広島大学教育学部
- 桑原 陽子(2000)「非漢字圏日本語学習者の漢字学習におけるイメージ媒介方略の有効性--漢字と英語単語の対連合学習課題による検討」『教育心理学研究』第48号 389～399 日本教育心理学会
- 桑原 陽子(2002)「漢字表記語の自由再生に及ぼす単語のイメージと形態情報の符号化の効果」『広島大学日本語教育研究』第12号 91～97 広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座
- 新矢麻紀子・高田亨・古賀千世子・御子神慶子(2005)『みんなの日本語初級 I 漢字英語版』西口 光一監修 スリーエーネットワーク
- 松見 法男(1996)「第2言語の文章記憶に及ぼすイメージの効果」『広島大学教育学部紀要. 第一部心理学』第45号 177～180 広島大学教育学部
- Heisig, James W. (2005) *Remembering the Kanji Vol. 1* Japan Publications Trading Co.
- O'Reilly, Tim 'What Is Web 2.0'
<http://www.oreilynet.com/pub/a/oreilly/tim/news/2005/09/30/what-is-web-20.html> 2006年10月参照
- Rowley, Michael (1992) *KANJI PICT-O-GRAPHIX* Stone Bridge Press